アルゼンチンのレストラン・ホテル価格、10月は1.5%上昇し伸び加速

同カテゴリーの年間インフレ率は33.6%に鈍化。月間上昇率はクージョ地方の0.5%からパンパス地方の2.4%まで地域差が見られた

2026年11月13日（金）



アルゼンチンのレストラン・ホテル価格は10月、前月比1.5%上昇した。国家統計局（INDEC）が11月12日（木）に発表したデータによると、9月の前月比1.1%上昇から伸びが加速した。

この結果は、同セクターの動向が一様ではないことを示した。レストラン・ホテル部門の月間インフレ率は前月から0.4ポイント上昇した一方、年間の上昇率は鈍化した。同カテゴリーの価格は前年同月比で33.6%高く、9月の年間上昇率34.6%を下回った。

10月の数値は、INDECが発表した全国消費者物価指数に基づく。同指数は全国の世帯が支払う価格を追跡し、統計上の6地域別の内訳も示している。レストラン・ホテル部門は、長期にわたる高イ

ンフレを経たアルゼンチンで、消費者物価の推移を引き続き見極めるうえで注目されるサービス分野の一つだ。

2025年12月から10月までに、レストラン・ホテル部門の価格は26.4%上昇した。同期間の総合消費者物価指数の累積上昇率26.3%とほぼ同じだった。それでも、10月の同カテゴリーの上昇率は総合指数を下回った。アルゼンチン全体の月間インフレ率は2.2%で、レストラン・ホテルの上昇率は同月の全国平均より0.7ポイント低かった。

地域別データでは、価格の動きに大きな差が見られた。10月のレストラン・ホテル部門の月間上昇率が最も小さかったのはクージョ地方で、0.5%だった。最も大きかったのはパンパス地方の2.4%で、地域別の最低値と最高値の差は1.9ポイントとなった。

全国の数値から見ると、他の大半の地域はこの両極の間に位置しており、同カテゴリーのサービスインフレが全国で一様に進んでいないことがうかがえる。全国の月間上昇率は全体として小幅だった一方、アルゼンチンの一部地域では平均を大きく上回る伸びを記録しており、地域差が目立った。

10月の数値は、年間比較で上昇率が鈍化した一方、レストラン・ホテルの価格上昇圧力が続いていたことを示している。月間上昇率が前月から高まっても、前年の同時期に記録された上昇率を下回る場合、こうした組み合わせが起こり得る。10月のINDECのデータは、前月比の上昇が加速する一方、前年同月比の上昇率は低下するという、まさにこの動きを示した。

また、このカテゴリーは2026年に入ってから、総じてインフレ全体の動きに沿って推移していることも報告書で示された。10月単月ではレストラン・ホテルの上昇率は総合指数を下回ったものの、12月以降の累積上昇率は総合指数とほぼ同じだった。年間を通じて、外食や宿泊にかかる価格は全国のインフレ平均に近い水準で上昇し、家計に負担をもたらし続けていることがうかがえる。

INDECは定例の消費者物価発表の一環として10月の報告書を公表し、全国データと地域別内訳を用いて月間の価格変動を示した。10月13日に公表された前回の月次報告では、9月のレストラン・ホテル部門は1.1%上昇していた。10月の発表は、年間上昇率が低下した一方で、月間の上昇ペースは鈍化しなかったことを示した。